

令和7年度 小中一貫教育校高円寺学園 学園評価

杉並区立小中一貫教育校高円寺学園長 田中 稔

令和7年度 重点とする 経営方針	方針の実現に向けた重点的な取組内容	判断する状況 1. 十分達成 2. 概ね達成 3. やや不十分 4. 不十分	活用調査等	達成状況(具体的に)	今後の改善策、充実させるための方向性等
1 児童・生徒の自己肯定感と他者信頼感を高めます。	(1)小中一貫教育校のよさを生かし、小・中学部児童・生徒、上級生と下級生、小学部児童と就学前の幼児が豊かにかかわり合う活動(交流)を活性化します。	1	体育祭・文化祭 教職員・生徒アンケート	従来行っている体育祭及び文化祭での交流や、委員会活動や地域清掃、幼保小の交流等に加えて、創立5周年記念式典の実施を通して、高円寺学園独自の交流を活性化することができた。	教職員での意見交換や児童・生徒の実態を踏まえて内容の充実・交流活動の精選を図り、高円寺学園独自の魅力ある幼保小中交流活動を行っていく。
	(2)児童・生徒の学級内でのウェルビーイングの実現状況を把握するため、WEBQUテストを実施し、その分析等を生かした学年・学級経営を進めます。	2	WEBQUテスト	WEBQUの結果について小・中学部合同研修を行い、その知見を活用し、座席替えでの工夫や自己肯定感の低い児童・生徒への声掛けなど、教職員間で活用への意識が高まっている。	小・中学部として結果の有効な活用法についての検討や、蓄積された結果の学部間での共有や有効な活用法について検討・研究し、取組の充実を図るようにしていく。
	(3)児童・生徒の実情に優しく寄り添うインクルーシブ教育を充実します。	2	WEBQUテスト 特別支援委員会記録、SCなど	校内委員会を通して各生徒の背景を理解し、個に応じた声掛けや合理的配慮の必要な児童・生徒に寄り添う支援を行い、児童・生徒が安心して学園生活を送れるようにすることができた。	校内委員会や学園全体での研修を通して教職員の意識の向上を図るとともに、他の児童・生徒の理解をさらに深めていく方策を学園全体で検討し、充実を図る。
	(4)全教師が児童・生徒の自己肯定感と他者信頼感を高める指導・支援及び、学年・学級経営、行事運営を行います。	2	WEBQUテスト 保護者アンケート 児童・生徒の取組振り返りシート	学園全体や学部・学年ごとで目的達成のため計画的な指導を行い、各行事や創立5周年記念式典の実施などを通して、児童・生徒の自己肯定感を高めることができている。	自己肯定感に加えて、他者信頼感の向上を図るための指導やその評価について、学部や分掌での検討を通して、さらなる充実を図ることができるように学園全体で取り組んでいく。
	(5)学級に居づらい、行きづらい児童・生徒の心を整える居場所「ほっとスペースこうえんじ」をさらに充実します。	2	教育相談校内委員会記録 ほっとスペース利用状況記録	登校が難しかった、あるいは家から出ることが少なかった児童・生徒について、スクールソーシャルワーカーを招いた新たな会議体を設置し、状況を把握しほっとスペース高円寺へとつなげることができている。	今後も児童・生徒が学校や社会との接点をもてる場所にしていくとともに、児童・生徒の実態に応じて今後の見直しをもてるような方向性を検討していく必要がある。
2 質の高い探究的な学習や体験的な学習を行います。	(1)充実したデジタル学習基盤を活用した質の高い探究的な学習(児童・生徒の主体的な課題設定・追究・解決を大切に学習)を日常的に実施します。	3	学力調査児童生徒質問	調査での活用率の高い児童・生徒は多いものの、探究学習における活用方法については学力調査や各評価から今後も児童・生徒の実態を分析しながら学園全体で研究していく必要がある。	研究や研修を通して多くの教職員が探究的な学習を指導する上で効果的に活用できる方法を研究し、学習活動の場においてA Iドリルや生成A I等を活用し、児童・生徒への適切な利用について指導する。
	(2)全児童・生徒の高円寺のまちの「文化」、高円寺学園の未来を担おうとする心を育てます。(5周年記念行事、阿波おどりを学ぶ、踊る行事・地域貢献活動等)	1	周年記念行事反省 年度末反省	創立5周年記念行事や各学部体育祭・文化祭などの行事を通して地域との関わりを深めるとともに、地域清掃や総合的な学習の時間での学びを通して地域への愛着を深めることができた。	従来の活動を通して地域との関りを深めていきながら、これからは地域に学ぶことを柱として指導内容のさらなる充実・精選を通して高円寺学園の特色を出していく。
	(3)地域について学び、地域の方々と交流を深める活動を通して、高円寺のまちと人を愛し、地域に貢献しようとする心を育てます。	2	教職員年度末反省 校内研究記録	総合的な学習の時間での取組に加えて、新たにスマイルームでの交流を通して地域の方々と交流さらに深めることができた。	新たに始まったスマイルームの効果的でよりよい運営の方策について、生徒と地域の方々が主体となって考え、まちと人を愛する心の育成に資する取組となるようにしていく。
	(4)イマジナスや大学等と連携し「探究・STEAM教育(※)」の研究と実践を行います。	2	教職員年度末反省 校内研究記録	イマジナスと連携し、「探究・STEAM教育」の実践的な学習を行うことができたことに加え、年間を通して早稲田大学から講師を招いて研究を実践し、効果的な助言をもらうことができた。	イマジナスとの連携については学年が限定的であり、該当学年以外には実践内容や成果等が把握しにくい面があり、その解消に向けて分掌や教科主任等で、学園全体でその有用性を共有できる仕組みを考えていく。
	(5)総合的な学習の時間のカリキュラム改訂に向けた研究を推進します。	2	教職員年度末反省 校内研究記録	3年に及ぶ研究の実践を通して得た成果と課題を踏まえて、研究分科会等で内容の精選やカリキュラム改訂について検討を重ね、児童・生徒の実態に応じた改訂を行うことができた。	カリキュラム改定後も研究部を中心に、教育課題や学園の教育目標、児童・生徒の実態を踏まえて適切な研究課題の設定や指導内容の見直しを行い、学園が目指す児童・生徒像の実現に資する研究を推進する。
3 児童・生徒の「人権・いのち・安全」を守ります。	(1)「人権意識=やさしい心・思いやりの心・多様性を尊重できる心」を育むために、人と人のかかわりを大切に教育を前に進めます。	3	ふれあいアンケート調査 WEBQUテスト	人権指導年間計画で人権課題を明確にして教職員の意識を高め、「人権週間の取組」や日常の授業等で人権意識を高める取組を実践したが、心無い言動や接し方が起きることがあった。	従来の人権教育を継続していくことに加えて、本学園で明らかになった課題の解消に向けて他者理解やよりよい人間関係の醸成を積極的に進める取組を児童・生徒と共に考え、実践していく。
	(2)前年度改訂した「高円寺学園 いじめ防止基本方針」に基づき、未然防止型のいじめ防止の取組を進めます。発生したいじめ事案については、被害者及び家族に寄り添い、「継続しない」「再発しない」対応を徹底します。	2	ふれあいアンケート調査 WEBQUテスト	「いじめ防止授業」の実施や、いじめ対策委員会を定期的かつ必要に応じて随時開催し、組織的に未然防止及び迅速な初期対応を行うとともに、被害者に寄り添う対応を行うことができています。	小中一貫教育校の良さを生かし、小・中学部を超えて、指導の協力体制を強化していく。「いじめ防止授業」や日々の指導を通して、いじめを防ごうとする児童・生徒の意識を向上させる。
	(3)児童・生徒のデジタルシティズンシップを育て、SNS等にかかわる人権侵害行為の当事者(加害・被害)となる事案の発生を防ぎます。	3	ふれあいアンケート調査 WEBQUテスト	ICTリテラシー教育の学習を通して児童・生徒の意識は向上したが、学校外でのスマホやタブレット端末によるSNSオンラインゲーム利用上の課題がある。	児童・生徒のモラル意識の向上のため、デジタル教材等を活用して、ICTリテラシー教育機会を充実させるとともに、保護者の意識の啓発のため、保護者会で意識啓発の時間を設けていく。

※ 探究・STEAM教育=科学・技術分野の経済的な成長や革新・創造に特化した人材の育成を目指して行う、各教科での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科横断的な教育

14	4 教職員の「ウェルビーイング」実現します。	(1)地域運営型学校として、学校運営協議会、学校支援本部、地域教育推進協議会等、地域と協働した経営及び教育活動等を進めます。	1	学園評価外部評価活動記録	学園経営方針についての助言や小・中学部における教育活動での協働に加え、地域運営型学校として連携を図りながら創立5周年記念式典を実施することができた。	引続き地域運営型学校の良さを生かした学園経営を行っていくため、協働実践の振り返りを確実にを行い、児童・生徒の充実した学びに資する円滑な協働を実施できるように教職員の参画意識を高めていく。
15		(2)校内の専門職や外部人材等を活用し、組織の多様性を高め、レジリエンス(様々な困難から立ち直る力)の高い学校組織を実現します。	2	校内委員会記録研修	児童・生徒固有の課題や学園全体の教育課題を解決するため、スクールカウンセラーや特別支援教育専門員等の知見を活用して、組織的な対応を行うことができている。	組織全体で専門的な知見を共有・実践していくことや、校内の多様な人材等を円滑にマネジメントする教職員の育成を行っていく。
16		(3)校務の協働化と校務DX(デジタル化)を進めます。	3	「働き方」に関する教職員アンケート調査 ストレスチェック結果	校務用パソコンと授業用タブレットの一体化や端末の持ち帰りが可能になったことに伴い、業務の利便性が向上され、多様かつ柔軟な働き方の推進をすることができている。	ペーパーレス会議・WEB会議を推進し、利便性の向上に伴う情報管理を徹底しつつ、オンラインを積極的に活用した教育活動について、ICTリーダーやICT支援員と連携して教員研修等を実施し、推進していく。